

第 29 回東北建築賞「作品集」選考報告

選考委員長 針生承一

1. 応募作品

- ・小規模建築物部門：8 点
- ・一般建築物部門：22 点
- 計 30 点

2. 選考経過

(1) 事前打ち合わせ会議（2008 年 9 月 10 日、於：日本建築学会東北支部会議室）
応募作品の数とその内訳を確認した上、東北建築作品発表会の運営方法及び東北建築賞「作品賞」の選考基準などについて事前打ち合わせ会議を行った。

(2) 東北建築作品発表会（2008 年 9 月 27 日、於：せんだいメディアテーク
7 階スタジオシアター）

第 1 次審査（同日、於：せんだいメディアテーク 2 階会議室）

第 19 回東北建築作品発表会において応募 30 作品の発表が行われた。質疑応答も入れて 11 分間という限られた発表時間の中でそれぞれのコンセプトと効果が紹介され、発表会は全体として滞りなく進められ終了した。時間厳守にご協力いただいた発表者、諸氏に敬意を表したい。

東北建築作品発表会の終了後、会場を移し、現地審査を行う必要のある作品を選定することを目的として、第 1 次審査に入った。選考基準である、1) 企画力、2) 技術力、3) 地域への貢献・文化度を前提に、審査員各自意見を出し合い協議を重ねた後で、最終的に消去法による投票とした。つまり、落選案を投票する方式とした。小規模建築部門については 4 票以下の 5 点とした。更に、一般建築物部門は 3 票以下の 6 点が先ず選ばれ、4、5 票の 7 点については再び投票をして、4 点を選んだ。審査員は更にこの結果を選考基準に立ち戻って検証し、協議を重ねた末、合意に達した。

この様な手順を経て、小規模建築物部門では 5 作品、一般建築物部門では 10 作品が選定された。また、現地審査は 1 作品につき 2 名以上の選考委員がこれに当たることを確認し、選定された 15 作品について現地審査の分担を決めた。

その後、現地において確認すべき点を検討し、作品の管理者との連絡を含めた現地審査の日程調整を行うこととした。

なお、惜しくも 1 次審査の落選者へは 200 字程度の講評を審査委員分担で作成し、審査委員会として送付することを確認した。

(3) 現地審査

仙台市以外の9作品については11月6日から11月22日までの短期間で選考委員の中からの4チームで現地審査が行われた。仙台市内の6作品（うち1作品は現地審査前に辞退）については1月31日に病休の吉田委員を除く、全審査員のもとで実施された。

(4) 第2次審査（2009年1月31日、於：日本建築学会東北支部会議室）

第2次審査に当たり、小規模建築物部門及び一般建築物部門の作品賞の数を、応募作品数から勘案して、それぞれ1～2点及び4点程度を目安として審査を進める事に決められた。引き続き、各部門ごと、仙台市外の現地審査担当委員からその審査結果を報告され、9作品についての質疑、討論がなされた。

また、吉田委員を除く全員で現地審査を行った、5作品についても意見交換を行った。これらの協議の中で、再び選考基準の3本柱との整合性が問われた。最終的には、これからの討議をふまえた上で投票が行われ、その結果を踏まえて、更にさまざまな見地から多くの意見が出された。その結果、小規模部門では作品賞2点、一般建築部門については作品賞4点、特別賞としては小規模建築部門から1点を選定した。

3. 選考結果

小規模建築物部門

作品賞 小規模多機能ホーム「わが家」

【所在地】岩手県北上市和賀町煤孫 10-14-1

【設計監理】Z設計／新澤 悦夫

【施主】医療法人社団 敬和会 理事長 金澤重俊

【施工】株式会社小原建設

作品賞 玄関のない家

【所在地】福島県河沼郡湯川村

【設計監理】株式会社アトリエキミ

【施主】渡部 健司

【施工】株式会社君工務所

一般建築物部門

作品賞 東北大学工学部『こもれびカフェ』

【所在地】宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 6-6

【設計監理】東北大学キャンパス計画室・(有)ヴァルトプラッツ・
(株)構造計画・(株)拓殖設備設計・東北大学施設部

【施主】東北大学

【施工】(株)丹秀工務店・高栄電気(株)・(株)北英工業所

作品賞 能代市立浅内小学校

【所在地】 秋田県能代市浅内字上ノ山 13

【設計監理】 設計チーム木（協）

【施主】 能代市

【施工】 中田・大森・サンワ建設工事 JV 他

作 品 賞 ヴィア定禅寺

【所在地】 宮城県仙台市青葉区立町 26-20

【設計監理】 株式会社竹中工務店

【施主】 株式会社 佐々木組

【施工】 ヴィア定禅寺新築工事共同事業体（竹中工務店+橋本）

作 品 賞 仙台市天文台

【所在地】 宮城県仙台市青葉区錦ヶ丘 9-29-32

【設計監理】 NTT ファシリティーズ

【施主】 株式会社 仙台天文サービス

【施工】 戸田・橋本特定建設工事共同企業体

特別賞 小規模建築物部門

○ 博士の家

【所在地】 宮城県仙台市泉区

【設計監理】 SOY source 建築設計事務所

【施主】 O 博士

【施工】 菅原建設

4. 講評

[作品賞]

小規模多機能ホーム「わが家」

本作品は、2006年の介護保険法改正により制度化された小規模多機能型居宅介護施設で、認知症高齢者の在宅生活を支えるサービスを提供している。発注者である医療法人が、同敷地に老人保健施設や認知症高齢者グループホームを運営しているため、施設の役割分担に配慮されており、「わが家」の方向性が明確になっている。地域社会に極力近づこうとする姿勢が配置計画や平面計画に現れており、現地の気候に配慮した点など地域性を高く意識している。このような新しい制度の施設に、風土を熟知した建築家が積極的に地域性を意識した提案を行った姿勢が評価された。コンパクトで回遊性を確保した平面計画、明快な断面・構造計画、住宅スケールの空間のなかに織り込まれた様々な居場所、ランドマークとなる切妻屋根の外観、雪や風・日照に対応した屋根形状や軒・雪囲い壁など、よくデザインされている。高齢化が進む地域において老人保健施設が集約し多様なサービスを提供する効果が感じ取れ、発注者や地域の利用者が、これらの施設に期待を寄せ、大切に使いこ

なしていこうという姿勢が感じられた。

玄関のない家

リノベーションとして、設計に一定の制限がある中で、設計者は建築主に対し、思い切った提案をした。玄関を廃し、代わりに集落の通りに大きく開いた土間を設け、家の内部には、角度を変えた正方形の小部屋を配した。かなり大胆な切り口である。しかし、清冽な流れの小堀に面した土間は、小さなコミュニケーションを創出することが十分に期待できる。老齢のオーナー夫婦にとっては、家の中から通りを往来する人々の姿が見え、小堀で洗った野菜の前で会話が生まれるその空間は、閉鎖的で重々しい玄関よりも有為なものであろう。また、室内壁にできた鋭角部は、収納やニッチとして巧みに活かされ、内部空間の構成に多様な変化をもたらしている。広いリビング・ダイニングと相まって、土間から招き入れた近所の人達との茶飲み話が弾みそうな室内空間である。また、黒を基調とした外壁や、南東に設けられた広いウッドデッキ、庭の柿木との取り合いなど、外部にも随所に設計者の思いが感じられる。それらは、土間からの踏み込みの狭さや未整備の外構など、若干の指摘点を十分に補って余りある。一つのリノベーションのあり方として、その斬新さと緻密さは、十分に受賞に値するものであろう。

東北大学工学部『こもれびカフェ』

本作品は昭和 40 年代に計画されたロードサイド型キャンパスから歩行者中心のものへと転換する計画の一環として建てられたものである。食堂棟、コンビニエンスストア棟、展示棟からなり、それらは鉄骨スラブ構造により梁を省略した薄い屋根とサッシの方立てを兼ねた壁体によって構成されており、天井及び床に木材を使用することによって暖かみのあるスッキリとした無柱の空間を創り出している。各建物は建設前から存在していた樹齢 50 年以上になる 7 本の欅並木に包み込まれるように建てられており、欅の間を縫うような建物の曲面は周囲の自然環境（建物の背後には天然記念物の植物園が広がる）に溶け込んでいる。同時に、従来ともすれば閉鎖的になりがちなキャンパスを学外者・地域に開放することも意図しており、バス停から植物園へと誘うような建物配置となっている。「こもれび」を冠することからも、この計画における重要な主体の一つは欅であると理解されるので、枝葉や根の成長に合わせた整備など、今後とも十分な配慮を期待したい。

能代市立浅内小学校

なだらかな丘を上ると切り妻屋根のシンプルな形態が見える。秋田杉厚板に天然塗料の外観は、旧校舎を知る人には懐かしく、太陽光線の具合で銀色に光ると宇宙船や方舟も連想させる。その造形と色彩は、校庭の草花や周囲の景観をじゃませず、

既にとけ込んでいる。平面計画は、防犯に配慮した職員室の配置や地域連携施設など、基本的な要求に応え機能している。経年による陳腐化や機能不全を起さず、長く確実に使われると推察できる。「地産地消の地場産材と木工技術の活用」というコンセプトは目新しくないが、コンセプト実現の徹底ぶり、総合的な達成度が高い。敷地高低差を活かし分棟した配置計画で RC 部分のない純木造校舎を実現し、体育館屋根の木造架構や杉樹皮断熱材による高断熱化と木材多用による省 CO₂ 等の環境配慮の水準も高い。そして、地場材の安定供給を可能とする秋田杉供給ネットワーク構築と一般的な在来工法の採用で、RC 造より低コストを達成した。これら成果は、今後の地域の木造建築推進や地場産業にも資すると期待でき、作品賞に値する。

ヴィア定禅寺

本作品は、檜並木が美しい仙台の定禅寺通り沿いに建設された下層階を店舗、上層階を共同住宅とする複合施設であり、街行く人のビューポイントとなり、アクティビティを誘発することを意図して計画されている。同社の作品でこれまでも採用されてきたフラットスラブ・鉄骨無垢柱・耐震壁からなる構造体が本作品でも使用されるとともに、ハイサッシュ・透明ガラスの手すりを効果的に組み合わせ、透明感のあるファサードと開放感溢れるリビングの実現に成功している。また、店舗脇に配置された鉄骨階段とグラフィックアートが施された「青の壁」もこのファサードに一役買っている。その他にも、EV ホール側に室外機置き場を設ける、リビングにはあらかじめブランドを設置しておくなど、ファサード維持のための細やかな工夫もなされている。さらに、店舗と住宅の切り替え階において、当該階梁のデザイン的処理、切り欠かれるフラットスラブ部分の支持や上層階無垢柱の支持を兼ねたと考えられる「青の壁」の配置など、各所によく練られたデザイン・構造的工夫が見られる。このように本作品は建築としての完成度が高く、作品賞に値する。

仙台市天文台

なだらかな山並みを基調とする周囲の美観と馴染もうとしたシンプルなボリュームの連続感は、低層でありながらも新しく生まれ変わった市民天文台にふさわしい存在感を十分に感じさせる建築である。また、開放感のあるトランジットホールを中心としたプラネタリウム、観測ゾーン、展示ゾーンの配置によって空間群を緩やかに融合化し、学者が求める特殊かつ高性能の機能を満たしつつも、一般利用者には使い勝手の良さや親しみ易さを抱かせている。こうした市民に使われる施設を徹底的に目指そうとする設計意図は、運営スタイルとも呼応しており、郊外という立地条件に反して予想をはるかに上回る利用実績をあげていることから読み取れる。本作品には PFI が導入され 30 年という長期にわたって変化することを

織り込んだ効率的な施設運営が求められています。これからも子供から大人を問わず幅広い市民にたいしてロマンや好奇心を掻き立たせる施設としてあり続けてほしいと期待する。

[特別賞]

○ 博士の家

黒と白に塗り分けられたボリュームを持つ平屋の住宅である ○ 博士の家は、特異でもなく、かといって周辺環境に馴染みすぎているでもなく、ありきたりな住宅街の風景の中に建てられている、というよりはむしろ添えられているという印象を与える建築である。シンプルな構成原理を用いローコストを追究するという意味でも、建築の仕方に従来の住宅スタイルを採用することはなるべく避けながら、新しいモデルとしての空間論とコンポジションが積極的に検討されている。建築材料の扱い方には特別な思いがあるようであったが、住み手の立場でみるともう少し、住宅として親切的な材料の使い方があっても良かったのではないかと思う反面、住み手がこの住宅に魅了され、楽しく快適に住もうとしている気持ちが強く感じられるところが、今回の特別賞に選考された一つの重要な理由であることも特筆すべき点であろう。

第 29 回東北建築賞作品賞選考委員会

- 選考委員長 ・ 針生 承一 (株)針生承一建築研究所
- 委員 ・ 浅里 和茂 日本大学工学部建築学科
- ・ 最知 正芳 東北工業大学建築学科
- ・ 鈴木 孝男 宮城大学事業構想学部
- ・ 永井 康雄 東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻
- ・ 中田 千彦 宮城大学事業構想学部デザイン情報学科
- ・ 西脇 智哉 山形大学地域教育文化学部生活総合学科
- ・ 西川 竜二 秋田大学教育文化学部生活者科学講座
- ・ 平岡 善浩 宮城大学事業構想学部
- ・ 吉田イサム 建築家吉田イサムとアーク・ハイ
- ・ 西田 哲也 秋田県立大学システム科学技術学部建築環境システム学科